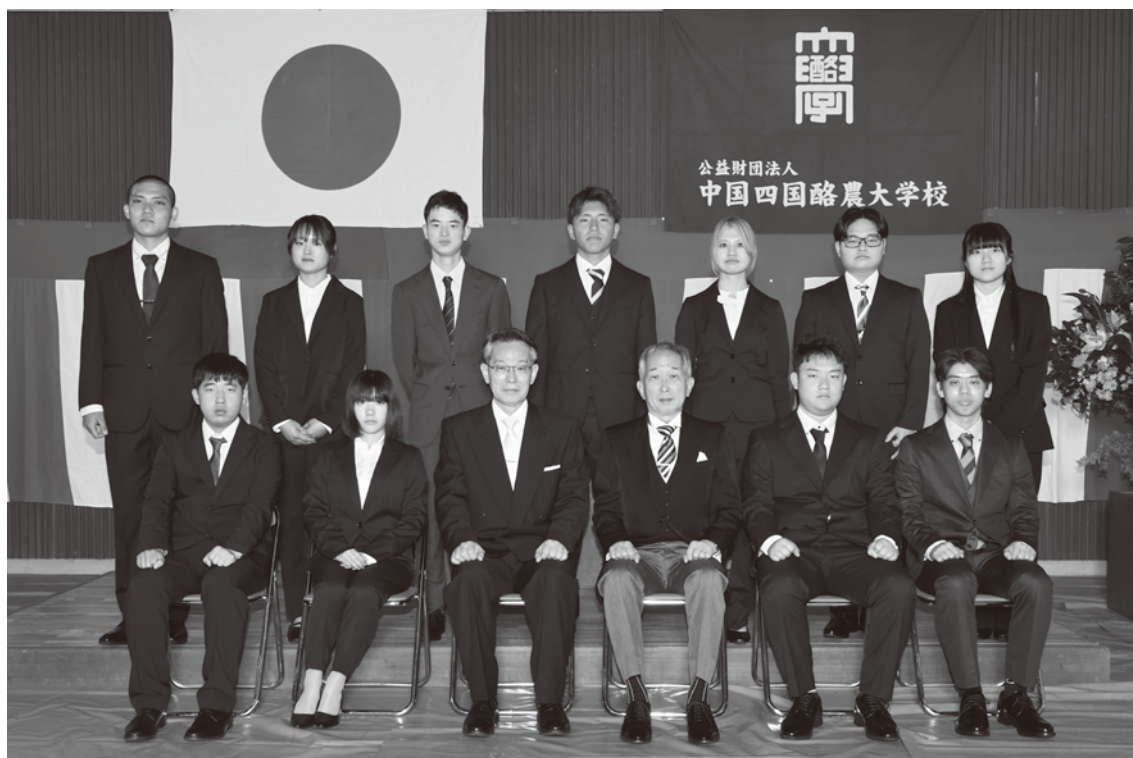


岡山畜産便り

2025 6

令和7年6月27日発行 第七十六巻第四号



令和7年度 公益財団法人中国四国酪農大学校 第61期生

も く じ

〔退任のご挨拶〕

退任に寄せて

柴田 範彦 1

〔重点施策・事業〕

令和7年度の岡山県重点施策について

岡山県農林水産部畜産課 3

令和7年度重点事業及び重点取組課題

おかやま酪農業協同組合 6

令和7年度重点事業及び重点取組課題

全農岡山県本部畜産部 8

令和7年度家畜共済事業重点実施方策

岡山県農業共済組合 10

令和7年度重点事業について

(一社)岡山県畜産協会 11

〔技術のページ〕

畜産研究所の主な試験研究課題について

畜産研究所 企画開発グループ 14

〔県民局だより〕

牛用接触冷感マフラー

～モ～っとクールに夏を過ごそう～

備前県民局畜産班 16

〔家保のページ〕

ランビースキン病(牛・水牛)について

井笠家畜保健衛生所 18

〔酪大だより〕

第61期生が入学しました

(公財)中国四国酪農大学校 20

〔教育現場の声〕

農大生のプロジェクト学修の取組について

農林水産総合センター農業大学校 22



メディバルグループ



動物の健康は 人の健康につながる

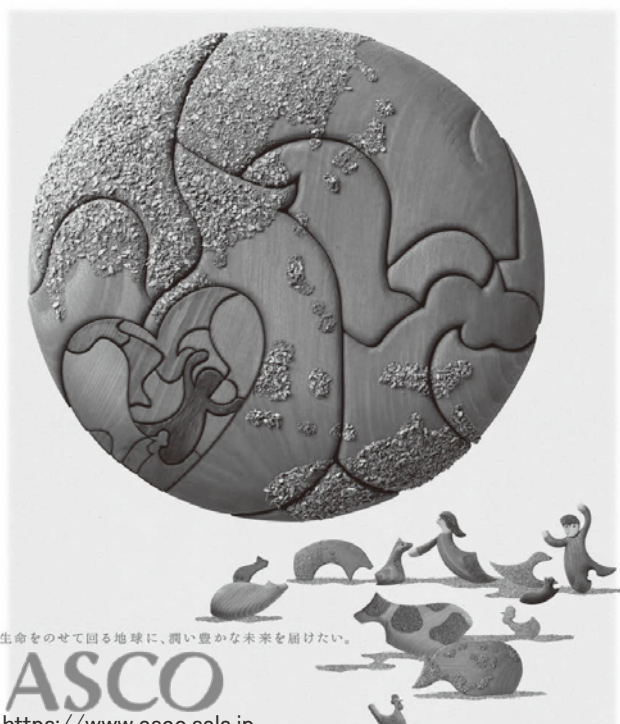
- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
 AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
 御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
 東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
 大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
 福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
 札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



生命をのせて回る地球に、調い豊かな未来を届けたい。

ASCO

<https://www.asco.sala.jp>

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都

〔退任のご挨拶〕



退任に寄せて

柴田 範彦

向夏の候、皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、私こと、このたび本年6月をもちまして畜産協会を退職する運びとなりました。在職中は、先輩方をはじめ、多くの同僚、後輩の皆様には13年もの長きにわたり多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

今後は一農民として、米・野菜・果樹づくりに励み、自然とともにある喜びを満喫したいと思っています。

ここで、在職中に心に残った出来事をいくつかご紹介させていただきます。

まず、平成24年に協会へ入会した当時は、全国の農畜産生産者団体がTPP（環太平洋経済連携協定）への参加に反対する大規模な運動を展開していた時期でした。TPP参加により輸入農畜産物の関税が撤廃または大幅に削減され、国内農業が大きな打撃を受けるのではないかという強い懸念があったためです。

私自身も、東京・日比谷公会堂で開催された全国集会に参加し、その後は霞が関（農林水産省周辺）でのデモ行進に加わりました。また、県選出の国会議員への反対要請活動も行いました。

その行進の最中、「こんな高層ビルで働くお役人に、地方農業者の気持ちが分かるものか」という憤りや、「だからこそ、私たち地方の生産現場の声をもっと届けな

ければならない」という強い思いが交錯しました。虚しさを覚えつつも、これが私にとって、その後の仕事におけるエネルギーや方向性を定める契機となりました。

以降、協会の仕事においても、常にそのような使命感を胸に、国や中央団体と対峙してきましたつもりです。

次に心に残っているのは、国が推進する「農場HACCP認証制度」への取り組みです。中国四国酪農大学校において、全国に先駆けてこの制度導入に取り組みしました。

開始にあたっては、大学校の職員や指導者が制度への理解を深めるため、キックオフイベントを開催。農林水産省、中央畜産会、日本食品安全検証機構をはじめ、県内からも地元おからく農協や蒜山酪農協、県畜産課、県民局、家畜保健衛生所のトップなど、多くの方々にお集まりいただきました。

制度の趣旨や意義についての説明を受けるとともに、関係者全員で力を合わせて取り組むことを確認しました。その後も山あり谷ありではありましたが、職員や指導者の粘り強い努力により、約4年を費やして認証取得を成し遂げることが出来ました。

この成果は、全国でも比較的早く、中四国地域で初の認証取得となり、現在も更新を重ねながら成果を上げています。物事を進める上で、「人と人とのつながり」の大

切さを改めて痛感し、深い感謝の念を抱いております。

三つ目は、平成31年に職員を海外研修に派遣できたことです。（翌年も1名を派遣しましたが、その後は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。）

私自身、30年前に県の事業でスイスを視察した際、本場の酪農に触れ、大きな衝撃を受けました。この経験から、「若い職員にもぜひ海外の畜産に触れさせたい」との思いをずっと抱いていました。

会長のご理解を得て、協会の独自予算によりヨーロッパへの研修を企画し、ちょうど中央畜産会でも同様の研修が行われるタイミングだったことから、これに合流させていただきました。

派遣された職員たちは、約2週間にわたりフランス、イギリス、デンマーク、ドイツを視察しました。「土地条件や所得対策など日本とは異なる点が多いものの、現地の生の声を聞き、多様な食文化を体感することで、日本の畜産をより広い視点で捉えることができた」と、熱く語ってくれました。視察で得た経験は、今後必ず現場で活かされていくものと確信しております。

さて、本県の畜産を見ますと、この10年間で農家戸数は大幅に減少しましたが、その一方で規模の拡大が進んでいます。酪農家は半減し現在は167戸、肉用牛農家は3割に減り351戸となっています。

現在も畜産を続けておられる農家の皆様は、幾多の困難を乗り越えてこられた経験豊かな精鋭ばかりです。その中で、指導者数と農家数がほぼ同数となった今、畜産協会の果たすべき役割や使命について、日々自問自答してまいりました。

昨今では、トランプ大統領の影響で再び関税の見直しが迫られ、TPP以上に国内畜産農業への影響が懸念されています。かつてのように「お金を出せば必要な時に必要な量の食料が手に入る」という時代は、もはや終わりつつあります。

安易な妥協は一次産業の衰退を招き、最終的には食料不足や価格高騰といった形で国民生活に跳ね返ってきます。目先の利害にとらわれず、10年・20年先を見据えた交渉と政策の展開を、切に願っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸、そして今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



令和7年度の岡山県重点施策について

岡山県農林水産部畜産課

岡山県の畜産業は県内農業産出額の約5割を占める基幹部門ですが、人口減少による国内市場の縮小や労働力不足、飼料価格高騰などの国際情勢の影響による生産活動の低下が懸念され、これらに的確に対応していく必要があります。

このため県では「第4次晴れの国おかやま生き生きプラン」、「おかやま農林水産プラン」等に基づき、マーケティングの強化とブランド力向上、新規就業者の確保・育成、生産基盤の維持・強化、生産性の向上、家畜衛生対策、畜産環境保全対策、新技術の開発及び普及等を総合的に展開することで安全で高品質な畜産物の安定供給に努めます。

本年度の主な重点施策は次のとおりです。

1 マーケティングの強化とブランディングの推進

「安全・安心でおいしい」おかやま和牛肉、ジャージー牛乳・乳製品などについて、生産・流通・消費者団体等と連携し、「まきばの館」における県産畜産物を活用した体験や交流会、各種キャンペーンを展開するなど地産地消活動を展開し、消費者ニーズに対応した県産食肉や牛乳・乳製品の消費拡大を推進します。

(1) 畜産物銘柄推進事業

安全・安心に「おいしさ」を兼ね備えた「おかやま和牛肉」の指定販売店等での販売促進や地産地消を推進するとともに、県産白桃残さを活用した飼料を給与した豚肉等の消費拡大対策を進め、マーケットインの考え方を踏まえたブランド力の向上を図ります。

(2) 「まきばの館」ラクトファーム充実プログラム対策事業【新規】

体験型施設である「まきばの館」を畜産・酪農情報発信基地と位置付け、県産畜産物をPRし、消費者に対し理解醸成を促すとともに来場者数の増加を図り、消費拡大につなげます。

2 次代を担う力強い担い手の確保・育成

(1) 酪農担い手確保対策事業

(公財)中国四国酪農大学校では、実践教育による経営感覚と確かな技術を持ち、酪農を通じて地域社会に貢献できる健全で良識のある人材の育成に努めており、全国からの学生確保や教育の充実を図る取組を支援することにより、将来の酪農を担う人材の確保と資質向上に取り組めます。

(2) 畜産就農者等確保・育成対策事業【新規】

(公財)中国四国酪農大学校において既存の教育カリキュラムに加え、外部講師による「和牛カリキュラム」の充実を図ります。

3 畜産物の生産振興

(1) 酪農の振興

国際情勢に伴う輸入飼料、乾牧草を含む資材費の高止まりにより酪農経営は非常に厳しい状況に陥っています。県では水田を活用した飼料作物の利活用を推進するとともに、酪農経営支援チームによる効果的な指導、牛群検定結果のフィードバック及びゲノミック評価の活用による乳用牛改良、公共育成牧場の機能強化、過度な投資を控えた生産性向上に資する畜舎等の修繕などの各種施策に取り組み、酪農生産基盤の維持・強化に努めます。

また、ジャージー酪農については関係機関と協力してジャージーブランドの強化に取り組むとともに、観光部局と連携した消費拡大を一層進め、ジャージー酪農の振興と地域の活性化を図ります。

ア 乳用牛群総合改良推進事業

牛群検定を推進し検定結果を有効活用するため、指導者研修会や農家指導、優良牛群の表彰等を行うとともに、ゲノミック評価による乳量や長命連産性などの遺伝的能力の把握を支援することで牛群改良を進め、酪農経営の改善を図ります。

また本年は第16回全日本ホルスタイン共進会の開催年であることから、関係機関と連携して出品対策を進めます。

イ 「みんなの牧場へ」 ステップアップ事業

酪農家から預託された子牛を強健な初妊牛に育成する公共育成牧場飼養管理施設の改修による効率化等を支援します。また、牧場体験等により食育・酪農理解醸成を図ります。

ウ 未来へつなげ！ 蒜山ジャージー酪農基盤強化事業【新規】

輸入飼料依存からの脱却、農地の維持・有効活用、収益性の向上、後継牛の確保、担い手の確保等の課題に対応して、持続的な蒜山ジャージー酪農生産基盤の維持・強化を図るとともに、出口戦略についての取組を進めます。

エ 持続的酪農支援事業

持続的な酪農経営の安定化を図るため、既存施設の簡易改修や生産性の向上に資する新技術の導入等を支援します。

また、近年では地球温暖化による異常気象により暑熱被害が拡大していることから、暑熱対策による生産性維持を図ります。

(2) 肉用牛及び中小家畜の振興

生産性向上に向けた支援・指導体制の強化を図りながら、効率的な和牛改良の推進や生産基盤の強化に努めます。

また各畜種ごとの農家経営の安定を図るため、家畜及び畜産物の価格安定対策を適切に推進します。

ア 肉用牛広域後代検定推進事業

優良雌牛群の維持と基礎雄牛の作出のため、優良雌牛からの受精卵採取や後代検定等を実施するとともに、これまでの「おいしさ」の指標であるオレイン酸等に加え、うま味成分や柔らかさ等の遺伝的能力を評価し、岡山和牛の改良を進めます。

イ 肉用牛生産条件特別整備事業

肉用牛経営の規模拡大等のための施設機械の整備や新規参入者の繁殖用雌牛の導入等に対し支援します。

ウ 伝統の「岡山和牛」再発見事業

岡山の血統を受け継ぐ高能力な繁殖雌牛の県内定着を促進するため、新技術であるゲノミック評価を活用するとともに、岡山和牛の改良を加速させ、令和9年に開催される全国和牛能力共進会北海道大会に向けた出品対策に対し支援します。

(3) 生産基盤・飼料生産対策

ア 畜産経営技術高度化促進事業

畜産経営及び生産技術等の高度化を図るため、畜産経営に関する情報の分析結果の提供や専門家等による支援指導、現地実証等により新技術を迅速に普及定着させることで、経営感覚に優れた生産性の高い経営体の育成を支援します。

また、気象や土地条件に適した飼料作物の優良品種の普及、稲WC Sや飼料用トウモロコシ等の県産飼料の生産・利用拡大を図ります。

イ 岡山県畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

畜産農家をはじめとする地域の関係者が連携し、畜産生産基盤の維持・強化を図るため、地域で策定する畜産クラスター計画に位置付けられた中心的な経営体が行う施設整備や機械導入を支援します。

ウ 耕畜連携体制強化対策事業

稲WC S等の県産飼料の生産利用拡大を促進するために必要な機械等の導入を支援します。また、収穫受託組織の強化を図るための研修会等を実施します。

エ 水田飼料作付拡大対策事業

水田裏を活用した牧草の生産拡大を図るため、作付面積の拡大を図る農業者に対して支援します。

4 家畜衛生対策

(1) 家畜伝染病防疫体制強化事業

全国的な家畜伝染病発生に伴い、防疫措置を円滑に進め防疫計画の実効性を確保するため、埋却予定地の試掘を行うとともに、実践型防疫演習を実施します。

(2) 家畜伝染病予防事業

家畜伝染病予防法に基づき高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、アフリカ豚熱等の家畜伝染病について、検査や病性鑑定による監視の徹底と消毒など衛生管理指導の徹底により、発生予防やまん延防止に取り組めます。

(3) 家畜衛生推進事業

野生イノシシでアフリカ豚熱が確認されたことを想定した防疫演習、畜産農家への飼養衛生管理指導、防鳥ネットや消毒機器の整備支援により危機管理体制や自衛防疫を強化するとともに、牛ウイルス性下痢対策や乳質改善により、安全・安心かつ高品質な畜産物の生産と畜産経営の安定を図ります。

(4) 受精卵移植推進事業

遺伝的能力の高い牛の受精卵を採取し、乳用牛及び肉用牛に移植することで、牛群の改良促進と優良子牛の増産を図ります。

5 畜産環境保全対策

環境保全型畜産確立対策推進事業

家畜排せつ物の処理技術指導や、耕種農家等への堆肥利用促進の普及啓発活動を実施し、環境保全型畜産の確立を図ります。

6 技術開発と普及

農林水産総合センター畜産研究所では、畜産経営の健全な発展と良質で安全・安心な畜産物の生産のため、「ブランド力の強化」、「環境との調和と気候変動への対応」、「生産性の向上」の3つの重点課題について試験研究を行い、速やかな成果の実証と普及を図ることとしています。

(1) ブランド力の強化

- ア 種畜の改良と効率的生産技術の開発
- イ ゲノミック評価を活用した優良種雄牛の選抜
- ウ もっと「おいしい岡山和牛」の改良
- エ 受精卵移植技術を活用した牛群改良

(2) 環境との調和と気候変動への対応

- ア 畜産からの温室効果ガス（GHG）排出削減のための技術開発
- イ 県内未利用資源を有効活用した堆肥化処理技術の検討

(3) 生産性の向上

- ア 県産飼料をフル活用！岡山和牛飼養管理技術の確立
- イ 稲WC Sを用いた乳用牛の育成方法の確立

これらの取組が円滑かつ効果的なものとなるよう、引き続きご協力をお願いします。

令和7年度重点事業及び重点取組課題

おかやま酪農業協同組合

I. 基本方針

1. 情 勢

令和7年度に入っても生産コストは高止まり、副産物価格の低迷等、酪農経営は困難な状況が続いています。また、消費減退による需給ギャップが生じ、乳製品の過剰在庫も抱えており、酪肉近でも生乳生産目標は現行同様の732万トンに設定されました。

令和7年度の需給見通しは、生乳生産基盤となる酪農家戸数の減少と2歳以上の乳用雌牛の減少による生乳生産量の減少により、需給ギャップは解消されると見込まれています。

乳価は8月1日から飲用等向けが4円/kgの値上げが決定されましたが、値上げまでの3カ月ルールが順守されなかった事は残念でなりません。反面、乳価値上げによる消費動向が危惧され、需給のアンバランスが拡大し、需給調整弁となるバター、脱脂粉乳が積み増しされる可能性があります。

そこで、農水省では国産畜産物利用安定化対策事業の継続による脱粉在庫削減や新商品開発等へ取り組む事業者への支援等を通じて需要確保を図るとともに、乳製品の在庫過剰時に加えて、不足時にも事業を発動する、酪農乳業需給変動対策特別事業を新設し、国内全ての酪農家と乳業メーカーの拠出による基金造成を図り、輸入調製品等の置き換え、市場隔離等の大幅な需給変動に対応する対策を講じ、酪農経営の強化や、生乳需給の安定を目指すこととしています。

組合では、運営の効率化とコスト削減を役職員一丸となり進め、生乳需給を見据え、中国生乳販連、全酪連、日本酪農

政治連盟と連携し、良質乳生産や国産飼料の供給・利用拡大を図ると共に、各種補助事業を活用し、生乳生産基盤の維持・確保、政府、国、行政等への酪農支援施策継続要請、高校生等への給食用牛乳提供の推進等、様々な消費喚起運動により酪農支援に取り組むこととしています。

事業重点推進目標

1. 生乳生産量89,000 t、購買取扱数量59,300 t、流通取扱頭数 7,900頭以上を目標として取り組みます。
2. 生乳の安全・安心（ポジティブリスト制）確保に取り組みます。
3. 販売不適合乳の発生を防止するため、脂肪率3.5%以上の堅持及び、特に体細胞30万未満に対する生産者意識の向上に努めます。
4. 財務の拡充を図ります。
5. 中販連、全酪連と連携し、事業推進を強化します。
6. 行政、諸機関の指導・情報・補助事業等積極的に取り組みます。

II. 各事業の重点事業並びに重点取組課題

1. 生産支援事業

岡山県酪農経営支援チームと協力して、経営改善・乳質改善・飼養環境の改善対策・担い手育成に努め農家支援を推進します。

疾病発生予防に努め、特にボツリヌス症蔓延予防を目的として、ワクチン接種に助成を行います。

国のクラスター事業、中酪事業、飼料生産基盤立脚型酪農・肉用牛産地支援事業、堆肥舎等長寿命化推進事業および単県事業に取り組み、組合員の経営の安定

と生産性向上を図ります。さらに、国の畜産ICT事業・楽酪GO事業を活用し、組合員の労働負担軽減に資する取り組みを推進します。

畜産環境整備機構リース、畜産近代化リースを取り扱います。

2. 酪農ヘルパー事業

おかやま酪農ヘルパー利用組合との相互理解の上でヘルパー事業を推進し、円滑なヘルパー出役を行うため、専任及び臨時ヘルパーの確保に努めます。

関係機関の指導のもと、国の助成事業を積極的に活用し事業の自立運営を目指します。

3. 乳用牛群検定推進事業

牛群検定情報や繁殖webシステムを活用した研修会等を開催するとともに、飼養管理・繁殖管理の向上に努めます。

4. 改良登録事業

登録の重要性を引き続き普及啓発に努め、さらに乳牛の遺伝的改良に取り組み、個体の生涯生産性向上を図ります。

5. 凍結精液事業

凍結精液窓口団体として、優良な精液供給に努めます。

6. 乳牛流通事業

県内産の乳用雌仔牛の流通促進し搾乳後継牛の確保と生産基盤の整備を図り、後継牛育成のため、北海道及び県内への預託事業を推進します。

搾乳素牛確保支援事業に取り組み、生産基盤の確保と酪農経営の安定に努めます。

7. 販売事業

指定団体の機能強化を支援するため、積極的に中国生乳販連に協力すると同時に共販体制のメリットを確保するため、中国生乳販連と共に集乳業務の合理化及び効率化に取り組みます。

岡山県酪農乳業協会と連携し、酪農・乳業・牛乳・乳製品に対する理解醸成を図るとともに、「乳和食」を中心とした

牛乳・乳製品の普及啓発に努め、また県産100%認定制度を活用し、岡山県産牛乳のPRに努めます。

8. 購買事業

乾草・添加剤・資材のキャンペーンを積極的に実施し、価格の低減に努めるとともに、全酪連や組合内各部署と連携し、指導購買に重点を置いた事業推進を図ります。

飼料情勢に応じ価格高騰対策及び、乳用配合飼料利用者に対し大口奨励を実施します。

9. 財務管理

組合財務の安定と健全性に努め、適正な運営を図ります。

適正な自己査定及び問題債権検討委員会を開催し、債権管理を強化し不良債権の回収に努め、財務の健全化を図ります。

運転資金の調達・管理に努めます。

10. 債権管理

組合員の経営安定と酪農収益の向上支援に努めます。

特別対策農家の経営改善を目指し、各部署・関係機関と連携し公的資金対応も含め健全化に取り組みます。

11. 経営管理

農家別出資目標額の達成に向け協力をお願いし、自己資本の増強に努めます。

内部監査の充実・強化により内部統制の徹底に努めます。

コンプライアンス態勢の強化と不祥事未然防止の強化に努めます。

組合員参加の幅広い広報活動に努めます。

職員を各種研修会へ参加させ、専門的な能力と幅広い知識の習得に努めます。

遊休資産の有利処分に努めます。

組合の施設設備は計画的に随時更新していきます。

酪農共済、バルククーラー保険等を取り扱います。

令和7年度重点事業及び重点取組課題

全農岡山県本部畜産部

【実施具体策】

1. 生産基盤の維持・拡大のため、ET技術による和牛子牛増産と子牛市場への出荷誘導を進めます。加えて、生産者・JAと連携し各種事業を積極的に活用して和牛繁殖への新規参入・経営転換支援をおこなうとともに、増頭支援をおこないます。
2. 岡山和牛子牛資質向上対策協議会と連携した効果的な生産指導によって「おかやま四ツ☆子牛」認定率の向上を図り、有利販売による生産者手取りの向上を目指します。
3. 総合家畜市場活性化のため、販購買者の誘致活動をおこなうとともに、施設の修繕や改修を適宜実施し、利活用の最適化および市場内事故の未然防止と低減に取り組みます。
4. 循環型農業および飼料米・SGS等を活用した畜産物販売を進めていくことで、持続可能な畜産生産振興に取り組みます。
5. 産直事業を推進し「地産地消」に取り組む生協等との連携を強化し、食農バリューチェーンの構築に取り組みます。
6. 全国販売会社との連携強化を図り、川下における販路拡大に取り組みます。
7. 県産畜産物消費拡大のため、加工品の新規提案を行い、JA直売所や直接販売の強化に取り組みます。
8. 全農グループ飲食事業を支援し、県産畜産物の販売推進を通して認知向上と消費拡大に取り組みます。

【行動計画】

実行具体策	7年度行動計画（数値目標）
1. 和牛繁殖基盤の維持・拡充 (1) ET技術による和牛子牛生産の拡大 自己優秀卵、県産優秀卵、全農卵によるET子牛の増産と子牛市場への出荷誘導 (2) 新規参入及び経営転換による和牛繁殖への増頭推進 (3) 指定交配推進と優良雌牛産子の保留推進	1,500頭 60頭 50頭
2. 和牛子牛有利販売対策の強化 岡山和牛子牛資質向上対策協議会活動による総合的な資質向上対策を実施し、併せて推奨子牛の表示販売	認定率25%以上
3. 総合家畜市場の活性化と市場内事故の低減 (1) 新規販購買者の誘致 (2) 施設の修繕・改修	新規3者 最適化・重大な事故の発生0件
4. 持続可能な畜産生産の支援 (1) 循環型農業の支援（瀬戸内かきがらアグリ事業推進） (2) 耕畜連携の強化 (3) GAP（農場生産管理工程）の推進	里海卵 年間120t 里海黒豚 年間200頭 飼料用米5,000t（SGS含） 生協版GAP 2農場実施
5. 畜産生産基盤および販路の維持・拡大 (1) 生協産直事業を通じた販売拡大 (2) 量販店へのPB商品開発	産直事業 販売数量 産直たまご 1,850t 産直豚 7,500頭 産直牛 180頭 量販店PB商品の開発 新規 1件

実行具体策	7年度行動計画（数値目標）
6. 全国販売会社との連携強化 (1) 全農ミートフーズの加工受託 (2) 全農チキンフーズとの同行商談による新規取引先開拓 (3) 全農たまごと連携した原料卵安定確保	受託加工 1 アイテム 新規取引 1 件 原料卵 260 t
7. 県産畜産物の販売力強化 (1) ミートセンター加工事業での製造・販売拡大 (2) JA直売所における食肉・鶏卵取り扱い金額拡大と支援 (3) はなやか精肉店取り扱い金額拡大 (4) JAタウン取り扱い金額拡大	ミートセンター加工品 販売金額 9,400千円 前年度比 食肉 102% 鶏卵 105% 前年度比 102% 前年度比 105%
8. 全農グループ飲食事業支援を通じた県産農畜産物の販売拡大 (1) みのるダイニングへの商品提案の実施 (2) 和牛焼肉「岡山そだち」でのイベント対応・販促支援・原料安定供給	みのるダイニングへの供給 前年度比 102% 和牛焼肉「岡山そだち」への供給 年間40,000千円

生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 笹野 英明

本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790

阿曾事務所 〒719-1103 総社市西阿曾前田193-4
TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



令和7年度家畜共済事業重点実施方策

岡山県農業共済組合（NOSAI岡山）

1 事業推進の方策

農業保険法に則って、家畜共済と収入保険の2つの保険を用意しています。家畜共済は、家畜の死亡、廃用、疾病及び傷害などの事故に対し、損害を補償する制度です。

収入保険は、農作物販売収入全体の減少を補償します。セット加入により、農業経営全体のリスクのカバーが可能となります。

家畜共済の昨年度の実績は、引受関係で期首時点の死亡廃用共済の区分数延909区分（110区分減）、頭数55,907頭（3,273頭減）、疾病傷害共済の区分数延554区分（66区分減）、頭数36,721頭（1,252頭減）でした。一方、事故関係は死亡廃用事故頭数で、3,692頭（185頭増）、疾病傷害事故件数は、48,080件（4,575件増）となりました。

畜産情勢は、資材高騰、調達困難などの諸事情による厳しさの中、先が読めない状況が続いています。

NOSAI岡山では、制度の普及はもとより農家経営のセーフティネットとなるよう適正実施に取り組めます。

- (1) 年1回の家畜飼養頭数調査を実施し、資源把握を行い、制度の周知徹底を図り、引受拡大による農家の損失補償に努めます。
- (2) 関係する研修会等へ積極的に参加して農家ニーズの把握に努めます。
- (3) 子牛及び牛の胎児並びに豚を積極的に加入推進し、農家の補償拡大を図ります。

2 家畜診療所の運営

昨年県下で48,080件の病傷事故が発生し、その内29.8%に当たる14,323件の事故

について県下5家畜診療所にて診療を行いました。昨年は支所統合に伴い3か所の診療所を移転しました。4月に美作家畜診療所が鏡野町へ、9月に備北出張所が高梁市津川へ、令和7年1月に備中家畜診療所が矢掛町へ移転しました。27名の獣医師により診療業務及び損害防止事業を行っています。

家畜診療所は次の項目を重点とし業務を行います。

- (1) 畜産経営の安定を図るため、診療業務及び損害防止を充実させ、支援体制の強化を図ります。
- (2) 獣医師は、治癒率向上のため、疾病の早期摘発、早期治療を行います。
- (3) 生産獣医療体制の強化のため、職員の専門化を進め指導者を育成します。
- (4) 技術研究会の活動を中心として、高度獣医療提供のため獣医師の技術及び資質の向上に努めます。

3 損害防止事業の実施方策

生産獣医療支援センターが中心となって家畜共済加入農場で家畜共済事故低減指導事業として牛の健康診断（代謝プロファイルテスト）を実施し、農場の死廃・病傷事故低減を図り生産性向上を関係機関との連携により損害防止事業を進めていきます。

NOSAI岡山では、畜産農家への支援による経営の安定、消費者への安心・安全の提供、防疫体制の拡充等も併せて重要な業務と考えておりますので関係各位のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

令和7年度重点事業について

一般社団法人岡山県畜産協会

①健全な畜産経営体を育成するための経営 診断・指導及び担い手等の育成

○畜産経営技術高度化促進事業（県）

本年度、県が策定する「岡山県酪農・肉用牛生産近代化計画書」の作成支援とともに、畜産経営の経営診断により現状分析を行い、診断結果と連動した飼養管理指導を県関係機関等と一丸となって実施します。併せて金融機関と連携し融資計画の作成支援を実施します。

酪農経営支援チームにおいては、経営診断結果や融資計画を活用した経営指導を実施します。岡山和牛子牛資質協議会においては、飼養管理と併せて経営指導を実施し、四ツ☆子牛の認定事業を通じ和牛子牛の資質向上・所得向上の支援を行います。

また、他産業からの担い手確保のための和牛入門講座、さらに就農した生産者のため、持続可能な繁殖経営の維持発展を目指したフォローアップ研修を開催します。

飼料高騰対策としては、耕畜連携の推進による県産飼料の生産・利用拡大を推進するとともに、推進の中核となる岡山県コントラクター協議会の支援を行います。

○畜産特別資金推進指導事業（中畜）

畜産リノベ資金借入者の経営体質強化のため、融資機関等と効果的な指導体制を構築し、定期的な経営状況の把握を行うとともに、経営分析に基づく指導を実施します。

また、多額の投資を行っている経営等をモニタリングし、畜産リノベ資金や酪肉支援資金借入が必要な経営の早期把握に努めます。

○地域畜産支援指導等体制強化事業（中畜）

畜産に携わる女性が地域や畜種を越えて集い、畜産経営の向上に資するため、おかやまフォーベルネットの支援を行います。

また、関係機関と連携しながら生産者等からの相談窓口を設置・運営します。

②酪農肉用牛振興対策

○畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター機械導入事業、中畜）

畜産クラスター計画に基づく取組を行う者が生産コストの低減、畜産物の高付加価値化、飼料自給率の向上を通じた畜産経営の収益性の向上に必要な機械装置の導入を希望する際の要望書及び申請書の取りまとめ等を行います。

○ICT化等機械装置等導入事業

（畜産ICT事業、中畜）

○酪農労働省力化対策事業

（楽酪GO事業、中畜）

酪農家の労働負担軽減・省力化に資する先進的機器の導入と一体的な施設の整備を支援します。

○酪農経営安定化支援ヘルパー事業（機構）

ゆとりある持続性の高い酪農経営の実現のため、酪農ヘルパーの人材育成支援及び傷病時利用の円滑化等を図る事業を実施し、酪農経営基盤の安定的発展と牛乳の安定供給のための支援を行います。

○肉用牛経営安定対策補完事業（機構）

繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の

整備や肉用牛ヘルパー活動の強化を推進します。

○優良繁殖雌牛更新加速化事業

(全国肉用牛振興基金協会)

子牛価格が低水準で推移する中、高齢繁殖雌牛から生産された子牛が低価格で取引される傾向を改善するため、畜産クラスター計画に基づき、高齢繁殖雌牛から優良な若い繁殖雌牛への更新した実績に応じて奨励金を交付します。

個々の農家だけでなく、地域における繁殖雌牛群の若返りを目標に取り組みを推進します。

③価格安定対策

○肉用牛肥育経営安定交付金制度

(機構・県)

販売した肥育牛の標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、生産者の経営に及ぼす影響を緩和するため、その差額の9割を交付金として交付します。交付金のうち、4分の1については、生産者積立金(一部県が負担)から支出します。

○肉用子牛生産者補給金制度(機構・県)

肉用子牛価格が低落し、保証基準価格を下回った場合、制度加入の生産者に対して補給金を交付し、肉用子牛生産の安定化を図ります。低落時に肉用牛経営の支えとなるよう、制度加入と継続した個体登録の推進を行います(保証基準価格:黒毛和種574千円、乳用種164千円、交雑種274千円)。

○優良和子牛生産推進緊急支援事業(機構)

飼養管理の向上に取り組む和子牛生産者を緊急的に支援するため、和子牛の取引価

格が発動基準を下回った場合に、飼養管理向上のための取組メニューを行う生産者が販売した和子牛に対して奨励金を交付します。

○和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業(機構) R7新設

意欲ある生産者の経営の継続・発展に資する環境を整備するため、優良和子牛生産推進緊急支援事業に加えて、産地基盤強化に取り組む和子牛生産者に対し、奨励金を交付します。

○肉豚経営安定交付金事業(機構・県)

肉豚の生産者の経営に及ぼす影響を緩和することを目的に、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、その差額の9割を交付金として交付します。

④家畜伝染性疾病的発生防止、衛生管理の向上等自衛防疫の推進

○予防注射事業(協会)

家畜の伝染性疾病的発生を防止するため、各家畜のワクチン接種を計画的に実施します。

○家畜生産農場衛生対策事業(国)

ヨーネ病及び牛伝染性リンパ腫(EBL)の感染拡大を防止するため、検査とハイリスク牛のとう汰に対して助成します。また、牛ウイルス性下痢(BVD)に関して、PI牛摘発検査、ワクチン接種及びとう汰に対して助成し、BVDのまん延防止、早期清浄化を図ります。さらに、牛サルモネラ症のまん延防止及び早期清浄化を図るため、発生農場でのワクチン接種に対して助成します。併せて、飼養衛生管理指導及び牛異

常産ワクチンの接種を推進し、家畜生産者による自主的な疾病対策を支援します。

○特定疾病自衛防疫推進事業（県）

鶏ニューカッスル病等のワクチン接種を組織的に実施し、疾病の発生予防を支援します。

○家畜防疫・衛生指導対策事業（中畜） （農場HACCP）

畜産物の安全性の確保及び生産性の向上を図るため、関係機関と連携しながら、農場HACCP認証に向けた取組支援及び取得後のフォローアップ指導等を行います。また、農場従業員等を対象にした研修会、普及を図るための課題等を検討する普及推進協議会を開催します。令和7年6月1日現在、県内では、酪農3農場、肉用牛1農場、採卵鶏1農場の計6農場において認証を取得済み、4農場で認証取得に向け準備をしており、安心安全で安定的な畜産物の供給に寄与します。

（地域自衛防疫推進）

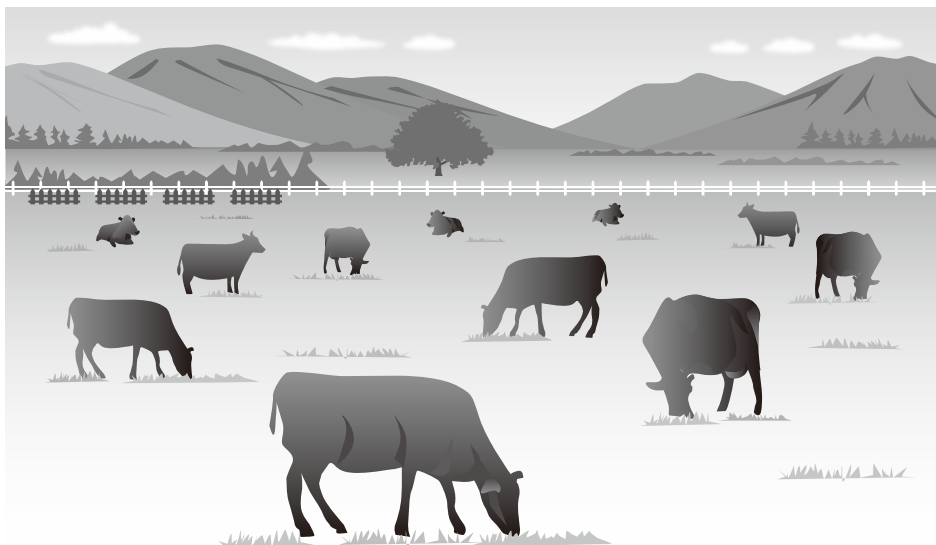
岡山県等との共催で、高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫、豚熱等に係る防疫演習を実施し、防護服等を提供します（8回）。

⑤生乳検査並びに乳質改善指導

○生乳検査受託事業（中販連）

中国5県で生産される生乳の格付検査を月3回行う他、生産者ごとの乳成分や細菌数の検査等を実施し、生乳の公正かつ円滑な取引に寄与します。

また、牛群検定農家の個体別成分検査や指導検査を実施し、飼養管理の改善や乳質向上に努めます。



畜産研究所の主な試験研究課題について

岡山県農林水産総合センター畜産研究所 企画開発グループ

令和7年度、畜産研究所では「ブランド力の強化」、「環境との調和と気候変動への対応」、「生産性の向上」の3つの分野で計8課題6事業に取り組んでいます。今回は、この中から主な課題の概要を紹介します。

【ブランド力の強化】

○おかやま和牛肉ブランド力向上のための 優良種雄牛造成

肉用牛については、産肉能力と種牛能力の高い種雄牛づくりに努め、消費者ニーズに適応する岡山和牛の改良を推進しています。優良基礎雌牛等から育種価、ゲノミック評価等を活用して指定交配により生産された雄子牛から、産肉能力検定により次世代の基幹種雄牛を選抜しています。

また、消費者ニーズの変化から脂肪交雑以外の「牛肉のおいしさ」に関心が高まっていることから、オレイン酸などおいしさに関連する形質の遺伝能力の分析を行い、おいしい岡山和牛の改良を推進します。



写真1 種雄牛「藤初花」号

【環境との調和と気候変動への対応】

○畜産からの温室効果ガス排出削減のための技術開発（R4～R8）

（農研機構他17機関との共同研究）

国では、温室効果ガス（以下、GHG）

削減に向けた様々な取り組みが行われていますが、畜産分野では、牛のゲップに含まれるメタンや家畜排せつ物由来の一酸化二窒素等のGHG排出量が我が国の農業分野におけるGHG排出量の約3割を占めており、排出削減に向けた技術開発が求められています。

牛から排出されるメタンについては、遺伝的な改良が可能であることが知られており、メタン排出量が少ない牛の改良に必要な簡易メタン測定法の開発等に取り組んでいます。

家畜排せつ物からの一酸化二窒素については、堆肥化過程における発生源を特定し、効果的な削減資材の添加方法等を調べています。



写真2 ロボット搾乳牛舎でのメタン測定の様子

○県内未利用資源を有効活用した堆肥化 処理技術の検討（新規：R7～R9）

近年、木質バイオマス利用の増加や住宅建築の減少等により、堆肥処理する際の水分会調整に使うオガクズの安定的な入手が困難になってきています。そのため、水分調整が十分できず、堆肥の品質低下を招く恐れがあります。

そこで、オガクズの代替として県内未利用資源や各種副資材の有効活用による堆肥化処理技術の開発を行い、家畜ふん尿の適正管理、堆肥の利用拡大により資源循環型農業を推進します。



写真3 堆肥化試験施設

【生産性の向上】

○稲WCSを用いた乳用牛の育成方法の確立（R5～R7）

近年、国際情勢の変化を背景に飼料価格が高止まりしており、飼料費が生産費用の約5割を占める酪農経営は厳しい状況にあります。

そのような中、稲WCSは県内でも作付面積が拡大し、輸入飼料よりも安価な県産飼料ですが、乳用牛では、搾乳牛に広く利用されているものの、育成牛は発育や繁殖成績への影響等の懸念から利用が少ない状況です。

そこで、飼料コストを抑えるため、8か月齢から15か月齢までの乳用育成雌牛への稲WCS給与試験を行った結果、発育や繁殖成績への影響もなく、十分に輸入乾草の代替えが可能であり、飼料コストも約2割削減することができました。

現在は、県内酪農家に対し利用実態調査や給与実証を実施しています。



写真4 稲WCS給与試験の様子

○県産飼料をフル活用！岡山和牛飼養管理技術の確立（新規：R7～R9）

和牛繁殖経営の安定的な継続には、高止まりしている飼料費の削減が喫緊の課題である中、耕畜連携への機運が高まっており、稲わらや稲WCS等の更なる利用拡大が求められています。

そこで、和牛繁殖経営における飼料費の低減を図るため、飼料価値を改善した稲わらや稲WCS等の県産飼料を最大限に活用した低コスト和牛飼養管理技術の確立を目指し試験に取り組みます。



写真5 県産飼料給与の様子

以上、本年度の主な試験研究課題について紹介しました。研究成果や技術情報については、農林水産総合センター畜産研究所のホームページにも掲載されておりますので、参考にして下さい。

畜産研究所のホームページアドレス

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/204/>

〔県民局だより〕

牛用接触冷感マフラー～モ～っとクールに夏を過ごそう～

備前県民局 畜産班

1 背景及び技術の概要

近年、温暖化の影響により、岡山県内でも、年平均気温が上昇し、日最高気温が35℃以上となる猛暑日が増加するなど、夏季の暑さが厳しくなっています。(図1)

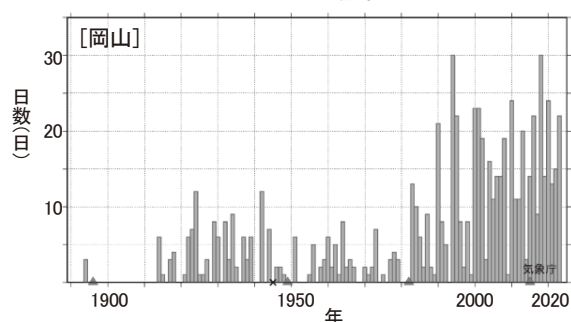


図1：日最高気温35℃以上の年間日数（猛暑日）
※岡山1891～2023年（気象庁HPから引用）

牛は暑さに弱く、湿度の影響にもありますが、乳用牛では25℃以上、肉用牛では30℃以上で暑熱ストレスを感じると言われており、暑熱環境においては、牛の飼料摂取量が低下することで、受胎率の低下や子牛の日増体重の低下など、生産性の低下が課題になっています。

そこで、現在、牛体に直接効果のある新たな暑熱対策資材として、触れると冷たく感じる「冷感プリント」と保水力のある保水綿による接触冷感マフラー（商品名：「モ～っとクール」)((株) オオツキ))が実用化されていることをご存じでしょうか？

この資材は岡山県農林水産総合センター畜産研究所と岡山県農業大学校との共同研究で、水に浸すまたは、水に浸すとともに氷を入れて牛に装着することで、牛体へ直接的な効果も確認されています。(岡山県農林水産総合センター畜産研究所「接触冷感マフラーによる子牛の

暑熱対策」(<https://www.pref.okayama.jp/page/771451.html>))

畜産研究所で効果の検証を行った後も改良が加わり、吸水ポリマーによってマフラーの保水性が向上し、冷感持続効果が長持ちするようになった「モ～っとクールHYBRID」が開発されました。(図2)

備前県民局では、令和6年度畜産技術普及推進事業を活用し、この改良された接触冷感マフラーを、実際に牛に装着して効果を検証したので紹介します。



図2：接触冷感マフラー
(モ～っとクールHYBRID)

2 効果実証の内容

令和6年9月4日に黒毛和種の繁殖牛1頭と離乳後の子牛2頭に、水で濡らし、保冷剤を入れた接触冷感マフラーを装着させ、一定の時間ごとの体表面（鼻部、肋部、背中）の温度をサーモカメラで測定しました。

表1 畜産研究所の検証との相違点

接触冷感マフラー	モ～っとクール	モ～っとクールHYBRID
冷感効果	冷感プリント、保水綿	冷感プリント、保水綿、吸水ポリマー
冷却材	水	保冷剤
検証場所	岡山県畜産研究所（久米郡美咲町）	岡山県立瀬戸南高等学校（岡山市東区）

※表面温度の測定部位は両検証とも同じ。

また、接触冷感マフラーを装着しない繁殖牛1頭と子牛2頭を対照区として、同様に体表面温度を測定しました。

3 効果実証の結果

子牛及び成牛ともに、最も効果が確認されたのが、鼻部の表面温度で、装着30分後には、未装着の牛よりも装着牛で低くなりました。特に成牛は2時間後まで、鼻部の表面温度が未装着の牛よりも低い結果でした。(図3)

マフラー内の温度を測定した結果、装着時は22.3℃だった温度が徐々に上昇し、平均で1時間後には、外気温と同程度の温度になりました。接触冷感マフラーに入れた保冷剤は装着後1時間後から2時間後の間にすべて融解しました。そのため、マフラー内の保冷剤が融解するまでは、装着牛と未装着牛で鼻部の表面温度に大きく違いが確認されたことになります。(図4)

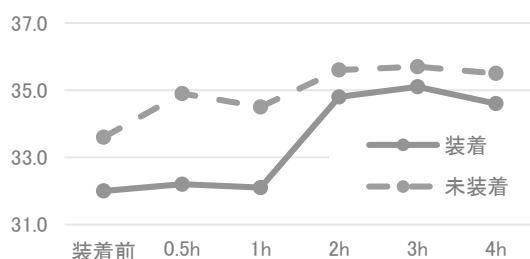


図3：成牛（1頭）の表面温度（鼻部）

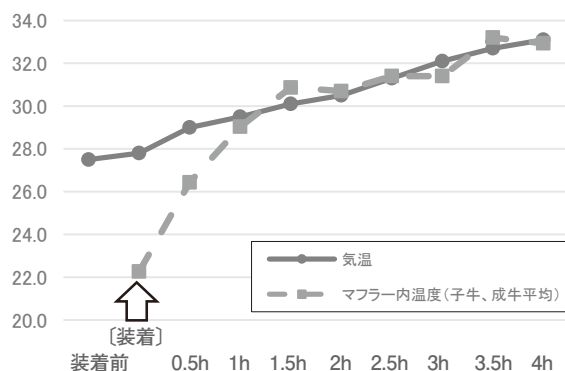


図4. 牛舎内の気温とマフラー内の温度

また、畜産研究所が行った検証で、改良前のものは、水で濡らしたのみの場合、装着後1時間で表面が乾燥してしまいましたが、改良されたものは吸水ポリマーによる

保水力の向上のため、装着後3時間経過時点でも、接触冷感マフラーの表面が水分を含んでいました。

この約3時間後時点で接触冷感マフラーを装着した子牛のみ、しゃがんでリラックスする様子が確認され、気化熱による効果の継続が見られました。(図5)



図5 接触冷感マフラー装着の子牛
(しゃがんでリラックスしている様子が確認された。)

4 研修会の開催

検証にあわせて同日、晴れの国岡山農業協同組合東部広域営農経済センターの主催で研修会を開催し、地域の和牛繁殖農家や次世代を担う農業高校の生徒が参加しました。

研修会では実際に畜産現場で取り組まれている、屋根への遮熱塗料塗布等の暑熱対策を紹介するとともに、接触冷感マフラーを子牛に装着し、効果を実証しながら使用方法について研修を行いました。

研修会に参加した農家の中には、後日さっそく接触冷感マフラーを使用し、意見を出してくださる方もいました。

5 まとめ

接触冷感マフラー価格は子牛用も繁殖牛用も1本数千円で、暑熱対策資材としては安価で、取り組みやすいものになります。(詳細は(株)オオツキHP参照 (<https://usimo.jp/cool.html>))

今後も夏の暑さが厳しくなることが予想されることから、今回の検証結果を生産現場や子牛の出荷輸送時の暑熱対策に活用することが考えられます。

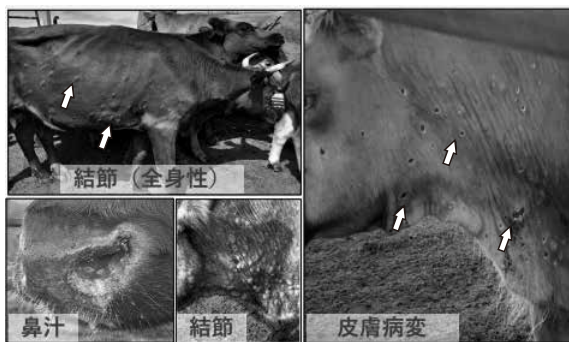
ランピースキン病(牛・水牛)について

井笠家畜保健衛生所

1 ランピースキン病とは

病原体はランピースキン病ウイルス（ポックスウイルス科カプリポックス属）で、牛・水牛に感染し、家畜伝染病予防法における届出伝染病に指定されています。なお、山羊や羊には病原性はないとされています。

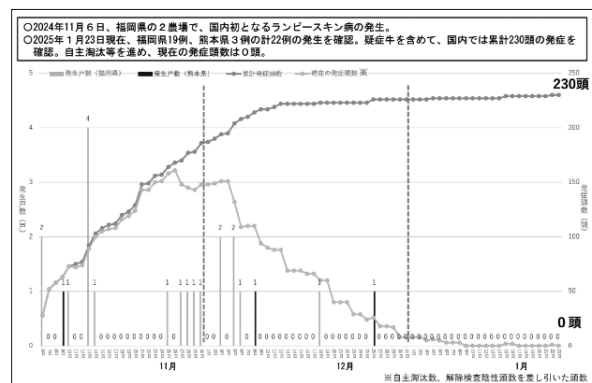
死亡率は1～5%と低いですが、皮膚に結節ができることが特徴的で、全身、特に頸部・背部・外陰部などに数個～数百個の結節が観察されます。



(出典：農林水産省)

また、発熱、食欲不振、体重減少などの症状を引き起こし、感染が進行すると繁殖能力の低下や乳量減少などの経済的損失を招きます。

2024年11月6日以降、福岡県の19農場（乳用16農場、乳用・肉用1農場、肉用2農場）、熊本県の3農場（乳用1農場、乳用・肉用1農場、肉用1農場）で本病の発生が確認されています。本病には、有効な治療法はなく回復までに3か月以上かかる場合があります。本病を発症した牛は、その間の移動（と畜場への移動を含む）や生乳の出荷なども自粛することになり、発症牛の隔離が必要です。



国内でのランピースキン病発生の経過

(出典：農林水産省)

2 感染経路

本病の感染拡大の主な要因は、感染した牛の移動と、蚊、サシバエ、ヌカカ、マダニ等の吸血昆虫（以下「ベクター」という。）による機械的伝播と考えられています。本病ウイルスはベクターの体内で6日間生存するとの報告があり、ヌカカのような飛翔性のベクターの一部は、風に乗って新しい地域に本病ウイルスを持ち込む可能性があるとされています。

3 ランピースキン病の侵入防止対策

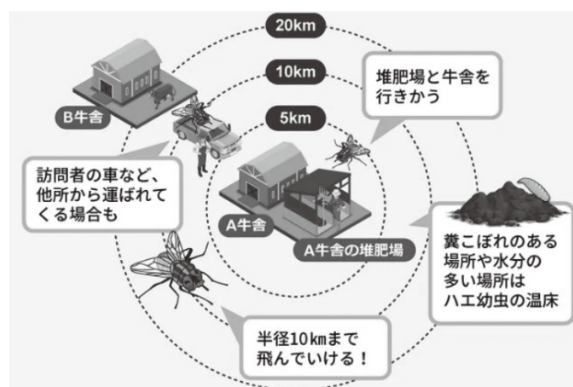
①毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要です。疑わし

い牛は隔離し、牛の導入、出荷、移動時は健康観察を徹底しましょう。

②ベクターの駆除

感染拡大の1番の要因はサシバエ等の吸血昆虫です。サシバエは24時間で21～28kmを移動できる飛翔能力を持ち、さらに羽化後1週間で産卵開始（生涯800個程度）する繁殖能力があり、牛床や堆肥を主な発生源とします。



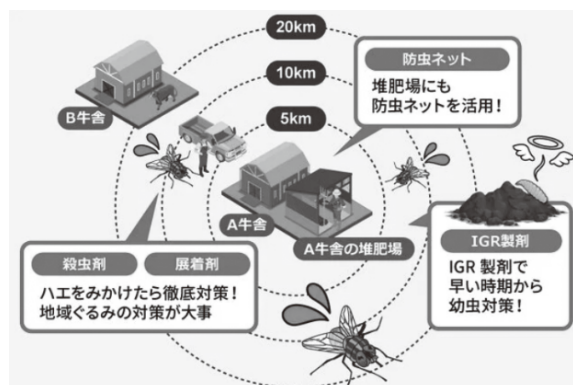
感染拡大の要因（出典：共立製薬）

そのため、次の防除が重要です。

物理的防除：牛舎・堆肥場に防虫ネットの設置

化学的防除：殺虫剤（バルメトリン製剤、ピレスロイド系製剤、フルメトリン製剤など）IGR製剤による駆除

※使用にあたっては、定められた用法・用量並びに休薬期間を遵守してください。



具体的な対策例（出典：共立製薬）

③畜舎・器具類の消毒

ランピースキン病ウイルスに対しては、アルコール、逆性石けん、次亜塩素酸ナトリウム等の多くの消毒液が有効です。

消毒する対象（踏み込み消毒槽、畜舎、器具類）、使用時の注意点に留意して、効果的に消毒するとともに農場外で使用した器具等を持ち込む場合は消毒を徹底しましょう！

消毒薬の種類と効果		一般的な使用対象									
種類	効果	一般細菌、サルモネラ等	芽胞菌、クロストリジウム	カビ	ウイルス（インフルエンザ等）	コクシジウム	畜舎	器具	踏み込み槽	畜体	手指等
逆性石けん	◎	◎	×	△	○	×	◎	○	○	◎	○
両性石けん	◎	◎	×	△	○	×	◎	○	◎	△	×
塩素系	◎	◎	◎	○	◎	×	○	○	—	△	△
ヨード系	◎	○	○	○	○	×	○	○	—	◎	×
アルデヒド製剤	◎	◎	◎	◎	○	—	◎	○	—	×	×
オルソ剤	◎	×	○	○	×	○	○	◎	×	×	◎
アルコール	◎	×	○	◎	×	×	△	○	—	◎	×
消石灰	◎	—	○	○	—	—	○	×	×	×	◎

〔消毒効果〕◎：効力強い ○：効力あり △：効力不確実 ×：効力なし —：不明
〔使用対象〕◎：最適 ○：有効 △：注意が必要 ×：不適 —：不明
消毒薬の種類、有機物の状況により、各種ウイルス、細菌等への効果も異なります。

器具を介した感染を防ぐため、飼養器具等の洗浄・消毒、血液を介した感染を防ぐため、注射針、直検手袋や人工授精用器具の一頭ごとの交換または消毒が重要です。

消毒にあたっては、水洗等により汚れを除去した後、消毒をしてください。汚れが残った状態では、消毒薬の効果が十分に発揮できないことがあります。また消毒後の乾燥も消毒効果を高めるのでお勧めします。

④まん延防止対策

農場内や他農場への感染拡大を防ぐため、農場に出入りする全ての車両は洗浄・消毒、殺虫を徹底しましょう。さらに車内に殺虫剤を常設し、車内に入り込んだサシバエ等も、確実に殺虫するなどの防除対策も重要です。

毎日の健康観察を徹底し、本病を疑う臨床症状を発見した場合には診療獣医師または家畜保健衛生所に連絡をお願いします。

〔酪大だより〕

第61期生が入学しました

公益財団法人中国四国酪農高等学校

令和7年4月8日、公益財団法人中国四国酪農高等学校に第61期生11名（男子7名、女子4名）が入学しました。入学生のうち岡山県出身者は3名で、大阪、広島、香川、長崎、宮崎、沖縄といった幅広い地域から集まっており、学生同士のネットワーク構築に役立っているのも本校の特色の一つです。



入学式の様子

昭和36年に「岡山県立酪農高等学校」として設立され、昭和40年に中国四国9県と兵庫県を合わせた10県で構成する「財団法人中国四国酪農高等学校」に改組した本校は、平成22年に専修学校の認可を受け、平成25年には公益財団法人に移行しました。『経営感覚と確かな技術を持った人材の育成』『酪農を通じて地域に貢献できる人材の育成』『社会人としての基礎力を備えた人材の育成』を教育理念に掲げ、卒業後すぐに即戦力として活躍できるよう技術、知識の修得を目指した実践教育を行っています。

トラクターやフォークリフト等の作業機械免許や家畜人工授精、受精卵移植、削蹄等の畜産現場で役立つ資格を取得する機会を設けるとともに、飼養形態、飼養品種の異なる2つの付属牧場（第1牧場：つなぎ牛舎・パイプライン搾乳・ホルスタイン種・黒毛和種、第2牧場：フリーストール牛舎・パーラー搾乳・ジャージー種）を有し、座学で学んだことを現場で実践することで机に向かっての授業だけでは得ることのできない技術の修得を目指しています。

新入生は、実習が始まる5月下旬まで、酪農および肉用牛に関する基礎的な知識を中心に学んでいます。初めて畜産に関わる学生もいるため1つ1つゆっくりと講義を進めていますが、「もっと勉強したい!」と実家が酪農家の学生や農業高校出身の学生が中心となって放課後自主的に集まり勉強会を開いていました。教えあうことでお互いにより深く知識を吸収でき、また学生同士密にコミュニケーションをとることで絆も芽生えると思います。先日行われたロープワークの演習でも、「とっくり結びってどうやるの?」「頭絡の作り方ってこれで合ってる?」などの声が飛び交い、学生たちは楽しみながら技術を習得していました。61期生は例年に比べ人数が少なく牧場での実習は大変になるかと思いますが、その分密度の濃い時間を過ごすことが出来るため、思う存分学んで少数精鋭の農業従事者へと成長することを期待しています。また少人数だからこそみんなで結束しお互い助け合い、卒業までの2年間誰一人欠けることなく学生生活を送り、力強く成長して欲しいと願っています。



授業の様子

昨今、日本の畜産業はさまざまな課題を抱えており、業界を取り巻く環境は厳しさを増す一方ですが、この現状を打破し畜産業界に新風を吹き込む人材の育成を目指し、日々精進してまいりますので、酪農家、肉用牛農家を目指す若者に、ぜひ本校をお勧めください。

CHUGOKU SHIKOKU COLLEGE OF DAIRY FARMING

令和8年度

学生募集

■推薦入試

受付期間:令和7年10/1(水)~10/15(水)
試験日:令和7年10/31(金)(岡山会場)
11/4(火)(本校会場)

■一般1次募集

受付期間:令和7年11/5(水)~11/19(水)
試験日:令和7年12/1(月)

■一般2次募集(定員に達した場合は実施しない)

受付期間:令和8年2/2(月)~2/16(月)
試験日:令和8年3/2(月)

牛たちとのふれあい、
仲間との楽しい時間。
大自然の中、一生に残る
2年間で過ごしてみませんか？



令和7年(2025年) オープンキャンパス

第1回

7/24(木)~25(金)

第2回

8/4(月)~5(火)

第3回

8/7(木)~8(金)

第4回

8/18(月)~19(火)

学校説明会・
見学会

第1回

7/19(土)

第2回

8/9(土)

公益財団法人

中国四国酪農大学校

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部632 TEL (0867) 66-3651 FAX (0867) 66-3652

2年間で酪農経営力を
身につけます！

酪農に必要な資格が
取得できます！

奨学金の制度も
あります！



ホームページ



インスタグラム

〔教育現場の声〕

農大生のプロジェクト学修の取組について

岡山県農林水産総合センター 農業大学校

1 はじめに

岡山県農林水産総合センター農業大学校畜産課程和牛コースでは、赤磐市の本校と美咲町の分校（畜産研究所）において、教養科目や畜産に関する専門科目について学び、2年次に自らが課題を設定し、課題解決を図るプロジェクト学修に取り組んでいます。

令和6年度に卒業した学生が取り組んだプロジェクト学修について紹介します。

2 プロジェクト学修の概要

課題名「飼料作物の収量アップを目指したマメ科植物栽培の検討」

－畜産課程 和牛コース 西山 侑吾－

(1) 目的

和牛経営においては、依然として飼料価格高騰が続いています。少しでも飼料費の削減を図るため、収量性が良く、たんぱく質が豊富なマメ科植物のアルファルファを自給生産し、さらにアルファルファの土壤改良効果を期待し飼料用トウモロコシの二毛作について検討しました。

(2) 実施概要

①場所：岡山農大畜産ほ場

②品目（品種）：アルファルファ（ケレス）、デントコーン（おとは）

③栽培概要

- ・作型：散播（アルファルファ）、条播（デントコーン）
- ・栽植密度：デントコーン：畝間70cm 株間22cm（6,500粒/10a）
- ・播種量：アルファルファ：4kg/10a
- ・栽培体系

アルファルファ

（4月播種、6・7月収穫）

基肥（牛糞堆肥2,000kg/10a）

追肥（尿素20kg/10a）

デントコーン

（8月播種、11月収穫）

基肥（牛糞堆肥3,000kg/10a）

④調査区

【試験区】アルファルファ+デントコーン（無施肥）

【対照区①】デントコーン（無施肥）

【対照区②】デントコーン（施肥）

⑤調査方法

生育調査、収穫調査、土壌調査

(3) 結果

春先の雑草防除が不十分でアルファルファ初期生育が悪かったものの、2番草は、収量を増やすことができました。

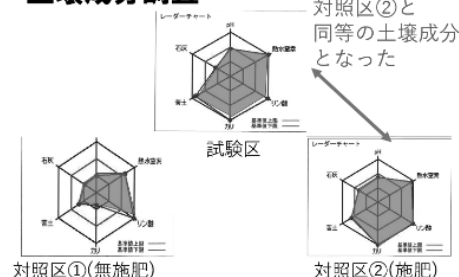
続くデントコーン栽培は、どの区も同等の生育であり、収量は対照区②が最も多かったものの、試験区との差はほぼありませんでした。

土壌成分調査結果は、試験区で窒素や苦土などの成分が対照区①より改善されており、無施肥でもアルファルファ栽培後のデントコーン生産が可能であることが確認できました。

収穫調査結果 デントコーン

	草丈 (cm)	株長 (cm)	葉面積 (cm ²)	葉重 (g)	全収量 (kg)	子実重 (t/10a)	収量 (t/10a)	子実割合 (%)
試験区	245.3	191	75	1.6	10.6	31	7,420	32.8
対照区①	243.2	184	79	1.5	9.6	20	6,720	26.6
対照区②	246.4	161	64	1.9	11.5	29	8,050	32.2

土壌成分調査



3 おわりに

本コースは、令和7年度入学の学生をもって募集を中止しています。

残り2年弱ではございますが、実習やプロジェクト活動がそれぞれの人生において必ず役立ち、立派な畜産の担い手として活躍してくれることを期待しています。

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



おいしいよ〜♪



JYUCHIKU Co., Ltd. 株式会社ジュウチク

〒701-1521 岡山県岡山市北区日近 726

Tel.086-295-9230 Fax.086-295-9240

Email : jyuchiku-info@po.oninet.ne.jp

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryo.co.jp



食卓からの、 ありがとう。

私たちがおいしい牛乳やお肉、

卵を食べられるのは、

畜産に携わるすべての人のおかげです。

さまざまな人の努力や想いがあるからこそ、

今日の食卓が豊かになっている。

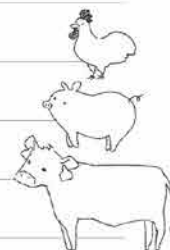
そのことを、私たちは知っています。

おいしい国産の畜産物が、

この先も続いていくように。

豊かな畜産の未来に向かって、

できることを続けます。



国産の牛乳、お肉、卵を 食べてまもう。



地方競馬と全国の畜産会組織は
日本の畜産を応援しています。
地方競馬の売上の一部は、地域のくらしや畜産の振興に
役立てられています。

<https://jlia.lin.gr.jp/tekiseikakaku/>

公益社団法人

中央畜産会

JAPAN LIVESTOCK
INDUSTRY ASSOCIATION



一般社団法人

岡山県畜産協会



令和7年度和牛入門講座受講生募集!!

参加費
無料

あなたの夢を応援します!おかやまで和牛を飼ってみませんか?

和牛の飼育に興味があり、将来岡山県で就農・新規参入を希望している方を対象に、和牛繁殖経営の基礎講義や牧場体験実習、家畜市場視察等を実施します。(10名程度)

○開講日時等 第1回目(全4回)

令和7年8月16日(土) 10:00~15:00

久米郡美咲町 岡山県農林水産総合センター畜産研究所

○申込書請求・申込み・お問い合わせ先

(一社)岡山県畜産協会 経営支援部経営対策班

TEL:(086)222-8575

H P:一般社団法人 岡山県畜産協会 <https://okayama.lin.gr.jp/>

《家畜伝染病の発生等状況によっては、講座の中止又は内容の変更を行う場合があります。》

高知競馬開催案内(2025)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

7月				8月			
開催日	備考			開催日	備考		
1 火				17 木			
2 水				18 金			
3 木				19 土	○ ナイター		
4 金				20 日	○ ナイター		
5 土	○ ナイター			21 月			
6 日	○ ナイター			22 火			
7 月				23 水			
8 火				24 木			
9 水				25 金			
10 木				26 土	○ ナイター		
11 金				27 日	○ ナイター		
12 土	○ ナイター			28 月			
13 日	○ ナイター			29 火			
14 月				30 水			
15 火				31 木			
16 水				16 土			

あとがき

今からもう30年ほど前になる。大学の獣医学科にいた頃、進路を考える季節だった。なんとなく、岡山県の就職説明会に足を運んだ。一人の男がいた。私の大学の先輩だった。岡山県の良さを一生懸命に語っていたが、正直、内容は覚えていない。ただ、額に汗をかきながらしゃべる姿だけが、妙に印象に残った。私は岡山県に就職した。別にその男のことを覚えていたわけじゃない。でも、なぜか惹かれたのだと思う。のちにその男は課長となり、退職後も畜産協会に移って、ずっと畜産農家のそばにいた。私も同じ道をたどるように、協会へやってきた。あの人は、いつも汗をかいていた。農家のために、黙々と動いていた。先日、総会で、その男は会長職を退いた。そして、また農家に戻っていった。その背中を見送ったとき、胸にぽっかりと穴が開いたような気がした。そしてふと、思った。ようやく、自分たちは本来の先輩と後輩に戻れたんじゃないかと。人の上に立つのではなく、人のそばに立つ。そのことを、私はその男から教わった。(H.F)

岡山畜産便り 6月号(初夏号)

第76巻 第4号(通巻717号)

令和7年6月27日発行

定価250円(消費税・送料含)

発行人 中塚陽二郎 編集人 藤原裕士

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-221-0511 FAX 086-234-6031

印刷所 ノーイン株式会社

令和3年度前期現場検定

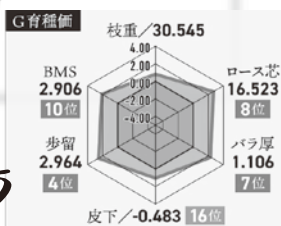
新規選抜種雄牛



P黒1197 いせのつる

伊勢之鶴

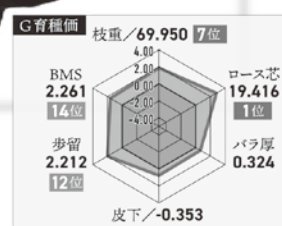
福之鶴×耕富士×勝平正



P黒1188 わかひさ

和華久

若百合×安福久×勝忠平



現場検定成績 歴代 No.1
話題の種雄牛がついに解禁！

ロース芯面積 No.1
質量兼備で短期肥育向き！



岡山種雄牛センター

TEL: 0868-57-2475
FAX: 0868-57-2476

(公社) 中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報 がんばる! 畜産! 8

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください！

配信中の内容：総集編 思いが繋ぐ畜産の未来／明るい未来へ向けて畜産DXの取り組み／乳用牛改良の取り組み／地域ぐるみで国産飼料生産！ ほか



◀スマートフォンからはこちら
▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産



お問合せ：(公社) 中央畜産会 経営支援部 (情報) TEL03-6206-0846

岡山畜産だより
令和7年6月号(初夏号)
(第七十六巻第4号通巻七二七号)

令和7年6月27日発行

岡山市北区磨屋町九十八 岡山県農業会館
発行所 岡山県畜産協会

定価 一部 二五〇円(送料共)
年間 一五〇〇円(送料共)